

## 令和4年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議

開催日時	令和5年2月28日（火） 午後2時00分～午後3時00分	
会議場所	阪南市防災コミュニティセンター6階多目的室	
出席者	会 長	森本 典子 （阪南市みんなの図書館を考える会）
	副 会 長	鈴木 恒一 （生涯学習部学校教育課）
	委 員	後藤田 郁子 （市民公募）
	委 員	頭師 康一郎 （市民公募）
	委 員	東堂 美幸 （子どもNPOはらっぱ）
	委 員	井上 和代 （阪南市子ども文庫連絡会）
	委 員	有田 佳乃巳 （下荘小学校）
	委 員	宮元 早苗 （はあとり幼稚園）
	委 員	隅田 恭子 （石田保育所）
	委 員	中川 智子 （子育て総合支援センター）
	委 員	若野 美幸 （こども未来部こども政策課）
	委 員	佐藤 麻侑 （健康部健康増進課）
	委 員	秋山 秀子 （生涯学習部生涯学習推進室）
	委 員	加藤 靖子 （生涯学習部図書館）
事務局	図書館主幹	森下 喜代子
	図書館総括主事	竈谷 早織
欠席者	委 員	大塚 尚子 （はんなん子育てネットワーク）
	委 員	置田 萌香 （阪南市社会福祉協議会）
	委 員	下林 奈央 （鳥取中学校）

事務局	<p>令和4年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議を開会する。今回は、コロナ禍で工夫して取り組まれたことや子どもたちの様子などを伺い、来年度策定する「阪南市第四次子ども読書活動推進計画」につなげていきたい。</p> <p>令和5年4月より、阪南市立図書館は、指定管理者「大阪共立・図書館流通センターグループ」による運営となる。その件を含め、図書館の委員より説明をお願いします。</p>
館長	<p>令和2年3月以降、コロナ禍のため、子どもの読書活動推進をはじめ、さまざまな局面でイベントや活動が制限されてきたが、3月14日以降、対応をコロナ前に戻していくことが可能になりそうで、子ども読書活動についても戻していくことができるのではと期待している。</p> <p>令和5年4月から市立図書館は市の直営ではなく、指定管理者「大阪共立・図書館流通センターグループ」による運営となる。期間は5年間である。サラダホールは、文化センターと図書館の複合施設なので、このホール全体を、現在文化センターを運営している「株式会社大阪共立」と、図書館運営のスペシャリストである「株式会社図書館流通センター」がグループを組んで運営することになる。</p> <p>図書館の役割は、図書館法や図書館条例で決まっているため、大きく変わることはない。</p> <p>指定管理者には2社の応募があり、図書館運営を受け持つ図書館流通センターの専門性や図書館活性化の提案、市民協働を重視する考え方が、学識経験者も含む指定管理者選定委員会で評価された。</p> <p>全国には指定管理者の運営による図書館は600館近くあり、その8割が図書館流通センターで、近隣では、泉佐野市、高石市、和泉市、岸和田市の分館等がある。多くの図書館を運営しており、さまざまなノウハウがあることから、阪南市立図書館をさらに良い方に変えていってくださることを期待している。</p> <p>10月から引継ぎを始め、打ち合わせを重ねているが、阪南市の子ども読書活動についても知っていただきたく、本日、4月から館長として着任予定の図書館流通センターの小林様に出席していただいた。小林様に自己紹介と一言をお願いします。</p>
新館長	<p>4月から阪南市立図書館に着任することとなった。現在は和泉市シティープラザ図書館にて館長として勤務している。</p> <p>今後、子どもたちが図書館を好きになるような企画を考えていきたい。</p>
事務局	<p>ここからの議事進行は、会長をお願いします。</p>
案件1	<p>今年度の子ども読書活動推進の取り組みについて</p>

会長

令和4年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議の議事を進める。  
案件1、今年度の取り組みについて、順に報告をお願いする。

委員

図書館では、第三次計画で掲げた「本の楽しさを共有しよう」というテーマのもと、「絵の本ひろば」の普及に努めているところであるが、子どもたちが集まって1冊の本を楽しむという催しは、コロナ禍で推奨されたソーシャルディスタンスとは相反する行事となり、広めることはできなかった。半面、ステイホームでも楽しめる電子書籍の導入に着手することができた。また、自動車文庫の小型化により、幼稚園・保育所に巡回することとなった。子どもたちは、初めのころに比べ、今ではずいぶん上手に借りたい本を選べるようになったと聞いている。幼少期から本に親しむことで、成長してからの読書量が増えてくれることを願っている。

委員

留守家庭児童会では、通年で、指導員による読み聞かせや「ホームだよ」で「毎月23日は家庭読書の日」のPRを行っている。現場の取り組みとして、支援員が季節にあった本や大切なことを学べる本を選んで子どもたちに提供している。

公民館では、各館において読書スペースを設けている。

委員

保健センターでは、乳児家庭全戸訪問事業を行っている。令和5年1月までの対象児は171人である。その際、図書館の利用をPRしている。4カ月児健診においても図書館と連携し、ブックスタートにて絵本を1冊手渡し、絵本の読み方などをレクチャーしてもらっている。令和5年2月対象までで、216人実施となった。

委員

子どもNPOはらっぱは令和4年4月より、子育て総合支援センターを業務委託で運営している。5月より親子教室「おしゃべりサロン」という行事で、本をどのように取り入れていけばよいか、相談しながら活動している。

ニコニコルームでは、あたごともだち文庫で借りた本を展示している。

来年度も続けていきたい。

委員

保育所には毎月ふれあい号が巡回にきてくれ、子どもたちは、すごく喜んでいる。絵本にも興味を持って聞いている。

図書館の方は、保育所からのリクエストに答え、季節にあった絵本なども準備してくれている。本の紹介もありがたい。

市民ボランティアの方にも絵本の読み聞かせをしていただいている。石田保育所は、図書館見学を実施できた。

委員	<p>公立幼稚園は、今年度2園となった。「絵の本ひろば」をまい幼稚園で2月20日から23日まで実施し、その期間中、保護者の方にも自由に見てもらえる機会を作った。ふれあい号の巡回の際、リクエストに応じて司書さんがおすすめ本を持ってきてくださる。私たちでは選ばない本を持ってきてくれることによって、新たな発見がある。</p> <p>今年度は、大阪府新子育て支援交付金の「絵本で育む子どもとのふれあい事業」を活用し、傷んだ本の買い替え、子どもたちに提供する準備を進めている。</p>
委員	<p>下荘小学校では、コロナの状況により図書室のレイアウトの変更をした。3年前は、3人掛けの大きな机を利用していたが、密になるので、机を撤去した。現在は、徐々に緩和はされ、机も元の場所にもどし、コロナ前の状態となっている。</p> <p>市立図書館からもたくさん本を借り、子どもたちに活用されている。</p>
委員	<p>あたごともだち文庫は、あたごプラザへのふれあい号の巡回を利用して、文庫で使用する本を20冊借りている。その本は、地域の方にも見てもらっている。</p> <p>また、子育て総合支援センターに20冊の本を貸出している。本が利用されるきっかけになっている。</p>
会長	<p>他の各文庫の状況を報告する。</p> <p>つくし文庫は、社会福祉協議会のすくすく塾と連携しているため、長期間、閉庫していた。11月より第2土曜の活動を再開している。毎月第4月曜に出前文庫として、保育所の4歳・5歳児に絵本の読み聞かせや紙芝居を行っている。</p> <p>「おはなしの会」では、コロナの状況で制限があったが、市内の公立保育所1所・幼稚園2園・小学校7校で読み聞かせ等の活動ができた。</p> <p>「図書館を考える会」は、会員の高齢等により例会が開催できていない。</p>
委員	<p>子どもNPOはらっぱでは、2年間緊急事態宣言等で事業が実施できていなかったが、今年度より通常行事ができています。</p> <p>子育て総合支援センターにて、子育てひろばで読み聞かせや工作を月1回、実施している。</p> <p>メインである舞台鑑賞活動については、昨年、座席数や劇団の移動距離に制限があり、延期や中止となった。今年度は感染対策を行い、予定どおり実施予定である。</p>
委員	

各小・中学校では、読書の時間や、授業中に図書的时间があり、子どもたちが中心となることができる活動を充実させている。図書委員や先生による読み聞かせやおすすめ本の紹介を行っている。春・秋の読書週間には、読書に興味を持つようなスタンプラリー等を図書委員と先生で考えている。

中国国籍の生徒が増えていることもあり、中国語版の絵本を購入し、通訳の先生による読み聞かせを行った。

小学校では、海洋教育に力を入れている。海に関連する本を収集するために学校の先生と学校司書が連携を取り、学校図書室と市立図書館等から本を集めて、授業に活用している。

数名の先生が大阪府のビブリオバトル研修を受講され、子どもたちに読書に興味を持ってもらえるような取り組みを考えている。

小学校でのタブレットは、発達段階によって取り扱いが変わってくるので、低学年と高学年が同じように使用することは難しい。ある学校では低学年の児童が、自分が読んだ本の表紙をタブレットで撮影し、友達同士で見せ合った。本について話ができる機会が増え、よい取り組みだと思った。

学校教育課では、現在、外国語指導助手を中学校4校に各1名、小学校8校に2校兼務で1名配置して、授業を行っている。夏休みに1名、冬休みに4名の外国語指導助手が、図書館で英語のおはなし会を実施した。先生たちにとっても地域の人とふれあう場は、貴重であった。

事務局

今回、欠席の子育てネットワークについては、例年実施している各種行事については、参加人数にばらつきはあるものの、今年度は実施できたとの報告を受けている。

会長

各委員の報告について、意見等はないか。

委員

電子書籍導入にあたり、児童書の冊数及び利用状況はどうか。

委員

1月末現在において、電子図書館の利用状況は、1,073人、貸出数4,244点であり、毎月約300点の貸出数となっている。図書館システムと連携していないため、どの年代が多いかは、統計が出せない。児童書数については、約1,200点である。今年度、コロナ交付金を活用して、400万円分の電子書籍購入を進めている。1,500点購入予定で、一般書と児童書が半分ずつである。その中には、通常1人1アクセスだが、同時に何人でもアクセス可能な電子書籍、「講談社児童書読み放題パック」が含まれる。今後、どのように子どもたちにPRしていくかが課題である。

ある学校が、児童及び教員の市立図書館の貸出券の有無を調査し、券が無い人には作成し、電子図書館の利用にのぞんだ結果、10月・11月は、300冊だった貸出が、12月は、1,000冊となった。アクセス数も倍となっている。

	貸出券がなければ、電子図書館が使えないが、紛失や親御さんが持っている等、様々なケースがあることがわかり、このことは次年度の課題となる。
委員	小学校にふれあい号が巡回していた時は、子どもたちはランドセル等に貸出券を入れていた。巡回の中止により、自分自身で持っていない子どもたちが増えた。現在は、1人1台のタブレットが支給されているため、電子書籍をもっと活用した取り組みができるのではないか。
委員	調べ学習等で使える電子書籍はあるか。
委員	調べ学習で使用できるものは、あまりない。市立図書館の紙の児童書は6万冊あるが、電子書籍は1,200タイトルしかない。250タイトル分の読み放題パックは、複数の児童・生徒が同時にアクセス可能であるが、調べ学習用の本ではない。
委員	調べ学習については、子どもたちが1人1台タブレットを持っており、インターネットの活用だけだと、先生は楽である。インターネットの良さと書籍の良さを同時に伝えていく必要がある。
委員	ふれあい号を小型化し、市内幼稚園・保育所に巡回していることは、よい取り組みだと思う。
委員	あるイベントでの子どもたちの研究発表に、参考文献の記載漏れが見受けられたが、学校として、どのように指導を行っているのか。自分が学校司書として勤務していた時には、子どもたちに教えていた。 学校現場だけの問題ではなく、市教委として取り組んではどうか。
委員	保健センターの本棚が1つ新しくなったと聞いたが、どうなのか。
委員	2台新しくなった。
委員	言い続けていたことが、実現につながった。
委員	稼働式の本棚2台と本を購入した。
会長	図書館が指定管理になった場合、補助金等を活用した図書の充実は、市が行うのか。
新館長	本の購入等は図書館で行うが、補助金申請は市が行う。

委員	<p>子どもの読書に関連する市の予算の少なさについては、委員からいつもご指摘をいただいているが、大阪府の新子育て支援交付金を活用する「絵本で育む子どもとのふれあい事業」で、令和4年度は図書館で約270万円、市立幼稚園で180万円が予算化でき、児童書や本棚を新規購入した。</p> <p>令和5年度は図書館で120万円と保育所で250万円を申請している。</p> <p>また、来年度の新規事業のSDGsまちづくり基金を活用した「子どもの読書環境整備事業」については図書館（100万円）だけではなく、保健センターや子育て総合支援センター、留守家庭児童会においての子どもの読書環境整備のため、合計約400万円が予算化されている。この基金の活用についても、最初の案では、市立図書館の図書費という話であったが、この会議での情報共有があったことから、子どもの本を充実させなければいけないのは、図書館だけではなく子どもの居場所すべてであるとの提案ができ、今回の予算化につながった。</p>
案件2	<p><b>第四次阪南市子ども読書活動推進計画の構成について</b></p>
会長	<p>案件2 第四次阪南市子ども読書活動推進計画の構成について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>来年度は、次期計画策定の年となる。ウイズコロナで、どのように読書活動を推進していけるか、ICT化が進む中で、どのようなテーマがふさわしいか、意見ををお願いします。</p>
会長	<p>小中学校では、各自がタブレットを使った授業に取り組んでおられるが、どのような様子であるか。次期計画に追加できることはあるか。</p>
委員	<p>電子書籍と紙の書籍とのバランスがとれたテーマを盛り込む必要がある。</p>
委員	<p>第1次計画では、数値目標を記載しないと決めた。次回は、具体的な目標を追記すべきである。</p>
委員	<p>公立の幼稚園が2園となったことで、子どもたちの様子に変化はあったか。</p>
委員	<p>はあとり幼稚園、まい幼稚園の2園となった。朝日幼稚園と尾崎幼稚園がはあとり幼稚園に統合した。尾崎からはあとりへ1名、朝日からまいへ1名移った。移ってきた子どもたちは、集団に馴染んでいる。</p>

会長	和泉市では、どのような読書推進のテーマに取り組んでいるのか。 この先の5年間を見据えて、共通して取り組める読書活動のテーマについて、なにかご提案いただけないか。
新館長	和泉市も子ども読書活動推進会議は年に2回開催している。数値目標にそって、検討している。
会長	数値目標を出すことで、成果はあるか。
新館長	在職期間が短いため、手ごたえはまだわからない。
委員	どういう数値を出しているのか。
新館長	様々な角度から数値目標を出している。図書館だけではなく、学校においても出している。
会長	来年度は、市の図書館担当が事務局になるのか。
委員	生涯学習推進室図書館担当が事務局となる。図書館からは、館長に委員として出席いただく。
<b>案件3</b>	<b>その他</b>
会長	案件3 その他 何かないか。 なければ以上をもって、令和4年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議を終了する。
事務局	今回は、令和5年6月頃を予定している。なお、委員の任期は、令和6年3月31日、第四次阪南市子ども読書活動推進計画の完成までとなっている。